

Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



BPT026-08

会場:201B

時間:5月24日 16:00-16:15

ユーラシア東南部における後期新生代哺乳類進化と統合層序の確立 Evolution of the Late Cenozoic Mammal and Integrated Stratigraphy of South East Eurasia

仲谷 英夫^{1*}

Hideo Nakaya^{1*}

¹ 鹿児島大学大学院理工学研究科 (理学系)

¹ Faculty of Science, Kagoshima University

大型類人猿や人類化石を含む後期新生代の化石産地の年代を明らかにすることは、それらの進化や移入を明らかにする上でも重要である。しかし、ユーラシア東南部では、火山岩や火山灰などの年代指示層がほとんどなく、古地磁気層序を中心に、その方法や研究者毎に、同じ産地でもさまざまに異なる年代が出されている。日本の調査隊もこれらの産地の調査を行ない、ユーラシア東南部における、大型類人猿や人類の進化を研究している。その中で、各産地の地層の年代を詳細に明らかにするために、哺乳類進化や移動による生物層序と古地磁気学などの年代層序を統合して、精密な年代と層序の確立することを目指している。

今回は、中国西南部の元謀盆地の原人サイトとタイ北部のチェンムアン盆地の大型類人猿サイトの研究例を挙げる。いずれの産地でも、詳細な岩石層序の確立のもとに、哺乳類の北アメリカからユーラシアへの移入イベント、近隣の産地との特徴的な哺乳類の対比、詳細な古地磁気層序とエクスカージョンの認定などを統合的行なった。その結果、中国への原人の移入は元謀が最も古いのではなく、藍田などの100万年前が最古になること、東南アジア最古の大型類人猿化石の年代は1200万年前にさかのぼることを明らかにした。

キーワード: ユーラシア東南部, 後期新生代, 哺乳類, 進化, 層序, 年代

Keywords: South East Eurasia, Late Cenozoic, Mammal, Evolution, Stratigraphy, Chronology